

考えてみっぺ、村の学校

～今年の飯館村の教育～ 第21回

Q 放射線について、子どもたちはどんな学びをしていますか？
A 小学校と中学校が連携して、発育に合わせて学習しています。



村には、小学校と中学校の先生方による放射線教育推進委員会があります。そこでは、専門家の指導をいただいて指導計画を作っています。
 授業では線香花火の火の玉が放射線を出すもの(放射性物質)とすると、パチパチと光る火花が「放射線」、その放射線を出す能力を「放射能」と学びました。



12月3日、放射線教育の授業公開がありました。村の小・中学校の先生に加えて、県内の多くの教育関係者が集まり、授業を研究しました。授業の中では、「放射線はばい菌」という児童の声もありました。研究会では、放射線はばい菌と違って、うつらないこと、身を守る方法があること、暮らしや医療や産業で活用されていることなどを、総合的に学ぶ大切さが話されました。

「放射線教育の目標」は…

放射線の性質について正しく理解し、生涯にわたって安全な生活を送ることができるようになるための基礎的な知識を身に付けるとともに、適切な行動をとることができるようにする。
 (飯館村放射線教育全体計画より)

「目にも見えない、匂いもしない放射線」だからこそ、正しい学びが大切です!

心を鍛える

飯館村教育委員会
 学校教育指導員 海野 和夫

新しい年を迎えました。家族で、年頭の所感や抱負、決意を語りあったことと思います。
 飯館村の子どもたちには、避難による新しい人生への挑戦と構築が大事な課題になっています。そのために、親には「わが子の心を鍛える」責任が課せられています。

心を鍛えることの第一歩は「強い意志力」の育成です。自分の成功や失敗は自分の努力次第、だから「今、すべきこと」に全力を傾けるといいう意志の確立です。特に、真剣に学業に励むという意志を育てることはわが子の豊かな未来を創ります。親の意志も問われます。

その二は「確かな自制心」の養成です。これは、自分の感情や欲望を適切に抑える態度です。自己統制(セルフ・コントロール)と言い換えることもでき、人間としての大切な要件です。この心情が培われていけば、わが子がメディアに溺れ、人生を壊すことはありません。

その三は「美しくきれいな心」の涵養です。心を磨くことで身につきます。磨くとは身の始末整理整頓、清掃などを真剣に行い、利他や思いやり、奉仕の心と実行力をもつことです。
 年の初めに、わが子の「心を鍛える」がどのようか、親がその確かめをするよう祈ります。

教育相談の申し込み 飯館中学校教頭まで
 ☎024-573-1161



▲幼稚園と地域をつなぐ大切な行事となっています



▲つきたてのお餅をおいしくいただきました!

つきたてのお餅をいただきます

園児が餅つき体験
 12月3日、草野・飯樋幼稚園においてもちつき会が行なわれました。この会は、深谷行政区有志が主催し、保護者が協力。園児たちの目の前で杵と臼を使った餅つきを行いました。
 園児たちは餅つきに「ぺったんぺったん」と声をそろえて応援。つきたてのお餅が運ばれると「おいしい」と笑顔を見せながら食べていました。



▲表情にも真剣な気持ちが表れています



▲練習を重ね、息の合った舞を披露しました

伝統を受け継ぐ中学生 田植え踊り

12月10日、福島市飯野町にある福島大学名誉教授・境野健児さんのご自宅において、飯館中学校1年生による田植え踊りの映像記録撮影が行われました。
 飯館中学校では震災以降、ふるさと教育の一環として、1年生が飯樋町の田植え踊りに取り組んでいます。踊りを終えた細杉くるみさんは「7月から練習をしてきて、踊れるようになって嬉しい。後輩にも引き継いでいきたい」と笑顔を見せていました。



▲踊りの後には、お餅の振る舞いも